

HSC024-02

会場:201A

時間:5月24日 09:00-09:15

## Bangladeshにおける稲作に対する降雨と洪水の影響 Impact of rainfall and flood on rice cultivation in Bangladesh

松本 淳<sup>1\*</sup>, 浅田 晴久<sup>2</sup>

Jun Matsumoto<sup>1\*</sup>, Haruhisa Asada<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 首都大学東京, <sup>2</sup> 京都大学

<sup>1</sup>Tokyo Metropolitan University, <sup>2</sup>Kyoto University

Bangladeshにおける1947年から2008年までの期間での稲作の作付面積・単収・生産量の長期変動を解析し、稲作に対する降雨と洪水の影響について解明した。インドや他のモンスーンアジア諸国においては、稲の単収や生産量が夏のモンスーン季における降水量に強く依存している、とされているのに対し、 Bangladeshにおいては両者の関係は希薄であった。一方、大洪水の発生と稲作の間に明瞭な関係が認められた。 Bangladeshには、雨季前期作 Aus、雨季後期作 Aman、乾季作 Boro の3種類の稲作が主に行われている。雨季後期作では、作付面積の長期変化傾向はみられず、ほぼ一定であったが、大洪水時には作付面積が明瞭に減少し、生産量も減少していた。雨季前期作では、作付面積は、1970年代半ばまでやや増加傾向にあったが、その後は減少傾向に転じ、特に1980年代後半から2006年までは急激な減少がみられた。単収は大洪水の翌年に大きくなる傾向がみられた。乾季作では、1960年代の半ば以後、作付面積が次第に増加し、特に大洪水の後で大きく増加し、単収も増加するため、生産量が大きく増大した。1998年の未曾有の大洪水の後には、乾季作の生産量が初めて雨季後期作の生産高を上回り、その後両者の生産量の差は拡大し、2008年には前者の生産量は後者の1.5倍程度にもなった。このように Bangladeshでは大洪水は洪水時期における稲作には大きな被害を与えるものの、その後の稲の生産拡大への契機ともなっており、 Bangladeshの稲作は、頻発する大洪水にもかかわらず、長期的に大きく生産量が増加している。

キーワード: 稲作, 洪水, 降雨, 灌漑

Keywords: rice cultivation, flood, rainfall, irrigation